

特集

「丸腰のまま 長生きしますか？」

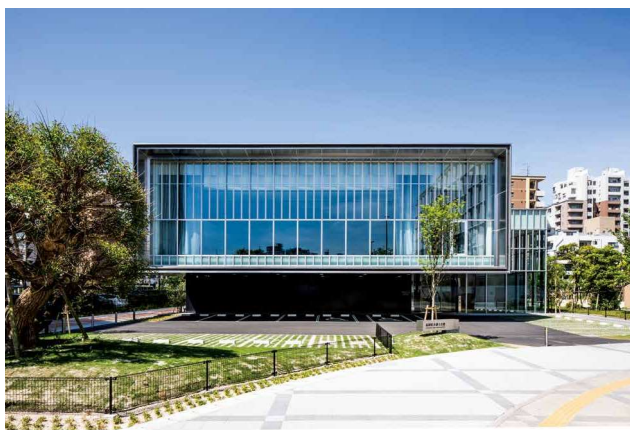
～備えがあればそれだけ憂いは小さい～



第1 弁護士の年金

1 弁護士の年金と聞いて、「はい、私は国民年金をつつがなく納めてます」という方は多いと思います。もちろん、国民年金へ払込をしている人が、長生きすれば国民年金から給付を受けられます。

ただ、会社員や公務員など（弁護士法人に所属している場合はこちら）は、厚生年金として、国民年金とは別に、年金を受け取れることになっていることは、お聞きになられたことがあると思います。「会社員や公務員などの年金は2階建て、個人事業主などの年金は1階建て」と言われる所以です。すこしデフォルメが入りますが、福岡県弁護士会館でイメージするとこんな感じです。



2 会社員や公務員などは、厚生年金によって、国民年金にプラスして厚生年金が支払われる建付になっているのに対し、個人事業主である弁護士には、そのような仕組みにはなっていませんから、自分で自分の老後をプランニングしなければなりません。

75歳まで弁護士業をやったとしても、平均余命まで10年以上あります。

老後をイメージせずに、なんの手当も行っていないければ、将来受け取ることができる国民年金だけで老後の生活を送らざるをえないことになってしまいます。もちろん老後の生活は人それぞれですが、高齢夫婦無職世帯の家計収支で平均的な1か月の生活費を参考にとすると、国民年金では十分というわけではないようです（こちらあたりを詳細に書くと説明チックになってしまい、ちょっと面白くありません。気になる方は「日本弁護士国民年金基金」でネット検索してください!）。

3 漢詩でも「少年老い易く・・・」とうたわれていますように、年を取るのは早いです。私だって、ついこの間、弁護士登録したばかりの感覚なのですが、数えてみるともう登録から24年が経とうとしており、「赤いちゃんちゃんこ」を着るというイベント（還暦）が猛スピードで近づいてきていることに愕然としてしまいます。

若いころに、老いた自分をイメージすることはとても難しいです。世代によってお金の意味合いもかわってくるでしょう。ヒビキ君のつばやきを聞いてみましょう。

ヒビキ君のつづやき

【子供のときの1万円】

そりゃあ大金でした。
お年玉でもらおうものなら、
小躍りしましたよ



【今の1万円】

一晚(一軒?)で
消えるでしょう。

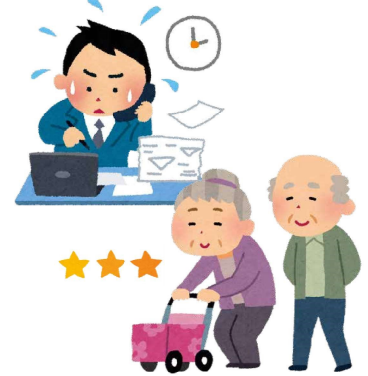


【80歳になったときの1万円】

たぶん、自分で稼げないな…。
毎月ならもっと無理。



だから、今、一生懸命、自分の
ために、弁護士国民年金基金
の掛け金、払っています。



4 世の先達は「時がたつのは早いのじゃ」と口をそろえて言います。また、個人事業主や自営業者が国民年金だけで老後を乗り切るのは難しいこともすでにご紹介させていただきました。

それでも、なにも対処しないまま、長生きしますか？

ぜひ、これを機会に自分の老後をプランニングしてみたいかがでしょうか？プランニングにはさまざまな手法があります。弁護士国民年金基金やiDeCo(イデコ)、小規模企業共済や自分自身で貯蓄をして老後に備える手法だってあります。

「まだまだ先の話、いまお金が余っているわけじゃないのに老後のことなんか考えられませ〜ん」

という姿勢で、日々の業務に臨めば、あっという間に時は過ぎ、国民年金にプラスされる経済的手段がないという意味で、まさしく丸腰で長生きすることになりかねません。

思い立ったら吉日、各手法のメリットデメリットを判断し、自分にあった対処を検討する、このきっかけとなるべく、本稿を特別企画とさせていただきました。

「第2」では事務所の先輩後輩のやり取りのなかでよくある疑問に答えていただき、「第3」では弁護士国民年金基金の体験を報告いただきます。

(徳永 響)

第2 老後のプランニング Q & A

とある法律事務所の先輩弁護士(B:登録15年目。優秀でしっかり者だが、たまに空気が読めない。)と後輩弁護士(A:登録3年目。老後のことは考えたことがない。Bを兄弁として慕う、酒好き。)との会話

1 老後の備え？

A 先輩、今月号の月報の特集読みました？老後をプランニングするとか言う話でしたけど、何をしたいのか、全然わからないですよ〜。

B A君、月報もいいけど、週末締め切りの書面の準備、間に合ってる？まだドラフト上がってきてないけど。

A (ギクツ) も、もうほとんど終わってます。あとは、証拠を引用するだけです。(ほんとは今から書き始めるんだけど)

B まあちゃんと間に合えばいいんだけどね。老後のことだけA君、何も準備してないの？

A はい、まだ登録3年目で売上も少ないし、老後のためとはいえ、毎月固定の出費があるのは辛くて結局何もできてないです。国民年金だけじゃ足りないとか、国民年金基金とかiDeCoは入っておいたほうがいいとか、よく聞きますけど実際のところ、どんなものかよくわかってないんですよね。やっぱり老後の準備ってしたほうがいいですかね。

もちろんだよ！生命保険文化センターってところの調べだと、ゆとりある老後の生活をするためには最低月額36万円が必要など言われてるんだよ。

B

A 全く仕事してないかもしれないのに、その金額は辛いですね。

何も準備していないと国民年金しかもらえない我々はかなり厳しい老後が待っていると思っていたほうがいいよ。一時期、老後2000万円問題とか言われていたけど、国民年金だけの人は、老後に5000万円は必要だ、なんて言われることもあるね。

B

A 5000万円…怖くなってきました。先輩は、具体的にどんな準備してるんですか。

僕は、弁護士国民年金基金とiDeCo(確定拠出年金)の両方に入っているよ。

B

2 弁護士国民年金基金との違い

A よく聞く2つですけど、何が違うんですか。

両方とも、国民年金だけでは不足する老後資金の上乗せのための年金なんだけど、大きな違いは、弁護士国民年金基金は、終身年金ということ、つまり上乗せ部分が生涯給付されるというのがポイントだね。iDeCoは、基本的には有期年金と考えておくといいよ。加入の仕方にもよるけど、長生きすればするほど効果が増していくのが国民年金基金といえるね。

B

A なるほど。

それと、iDeCoは自分で掛金や運用商品を決めて自分で年金資産を管理することになるんだけど、国民年金基金は運用の指示をする必要がないね。iDeCoは運用結果によって給付額が変わるんだけど、国民年金基金だと決められた額が生涯給付されるといのが基本になるよ。僕は、安定感のある弁護士国民年金基金に月額5万円、資産運用的な興味でiDeCoに月額1万8000円払っているよ。

B

A (そんなに毎月払う余裕があるなら、先輩が誘ったこないだの飲み会代、全額奢りでもいいんじゃないっすか?) 何でその金額なんですか。

国民年金基金とiDeCoは合わせて月額6万8000円が上限になっているから上限に設定して、一部を資産運用してみたいなとも思ったので、とれるリスクを考えてこの割合にしたよ。

B

A 全額国民年金基金でもいいんですか。

もちろん。僕は投資にも興味があったから一部をiDeCoにしたけど、僕みたいな掛け方は特別で、全額国民年金基金という人が多いかもね。

B

A (先輩は株とか興味ありそうだけど、僕はさっぱりだもんな。運用をプロに任せられる国民年金基金のほうがよさそうだな。) 税金対策として有効みたいなのも聞きますね。

うん。国民年金基金は社会保険料控除として、iDeCoは小規模企業共済掛金控除として、どちらも全額が控除の対象となるよ。この税制上優遇されている点が、両方に共通する最大のメリットだよ。このメリットがあるから、僕は上限額入っておかないと損くらいに思ってるんだ。

B

A なるほど。iDeCoは小規模企業共済掛金控除で全額控除されるって話でしたけど、小規模企業共済という制度も別にあると聞きますよね。そのあたりがいつもこんがらがります。

小規模企業共済は、事業を廃業した場合や退職した場合、その後の生活安定や事業の再建などのための資金を準備しておく制度って言われてるね。感覚的な説明だけど、国民年金基金とiDeCoは老後の安定した給付を目的とした老後資金、小規模企業共済は退職金的なものだと考えるといいよ。国民年金基金・iDeCoの合計上限6万8000円以外にも、小規模企業共済に別途月額7万円を上限に入ることできるよ。

B

3 いくら備える?よりも「早く」備える!

A (先輩にこき使われて、ヤケ酒ばかりして出費ばかりだから) 月額6万8000円だけでも毎月払うのは厳しいです。

B 毎月となるとね(それなりにA君も給料もらってるはずだけど、どこに消えてるんだろうな)。そういう人はまずは、国民年金基金で安定的に払える額から入ることがお勧めだね。僕も最初は国民年金基金に2万円くらいから入ったかな。

A 途中で増額とかもできるんですか。

B そうそう。iDeCoは年一回という制限があるけど、国民年金基金は、掛金はいつでも増減できて自分の状況に合わせて自由に設計できるんだよ(※減額については一定の条件あり)

A 一度、パンフレットは見たことあるんですが、国民年金基金ってA型とかB型とか色々あって複雑そうなんですよね。

B そのあたりがたしかに複雑に見えるんだけど、受け取り始める時期が原則65歳なのを、60歳に前倒しできるタイプがあったり、保証期間があるかないかの違いがあったりするだけだから、実はそんなに複雑じゃない。まずは基本となるA型(15年保証付きの終身年金。つまり65歳から80歳までは保証)に無理ない金額から入って、税額控除のメリットを受けるといった考え方がいいのかもね。

A 月額2万円くらいなら、飲食代(ヤケ酒)を1回我慢すれば全然払えますね。むしろ税額控除があるなら、貯金しておくよりお得なのか。

B そうそう。この低金利の時代だと貯金しておいてもほとんど増えることはないから、65歳までは絶対使わないであろう、毎月払える金額を老後への投資として積み立てておく感覚がいいと思う。貯金と比べたら全額控除だからインパクトが大きいよね。

A でもいいことばかりじゃないんでしょ?

B 国民年金基金もiDeCoも最大のデメリットは、加入後、基本的に途中の引き出しができないというところなんだけど、余剰資金を積み立てるといった考え方であれば、このデメリットはあまり気にしないでいい気がする。

A たしかにそうですね。やっぱり、ある程度の年齢になってから加入しようと思っても入れなかったり、入っても意味がないのでしょうか。

B いやいや、実は全くそんなことないんだ。むしろ税制優遇措置はいつ入っても同じだから、むしろ収入が多い可能性がある50代以上のほうが大きなメリットがあるとすらいえる。さらには60歳を過ぎても入れる特定加入という制度もあって、税額控除のために60歳から入る人や、60歳で払い終わった後も、この制度を使って継続して払い続ける人もいるくらいだよ。そういえば、国民年金基金は、配偶者分も全額控除の対象になるので、控除額が2倍になる。こういう節税効果を有効活用している人もいるよね。

A 聞けば聞くほど、思い立ったら早く行動しないとイケないですね。

B そうそう。少しでも気になったら、まずは「弁護士国民年金基金」で検索をかけて、ホームページを見てみるといいよ。すぐわかりやすくまとまっていて、ポイントだけを抑えた漫画もあって、読み物としても面白い。特に、トップページ中央の「国民年金基金を知ろう!」をクリックして、出てきた「kokky」君をクリックするとQ&Aにとぶんだけど、ここにだいたい気になることがわかりやすく書いてあるよ。15分もあれば全体像が掴めるんじゃないかな。

A (老後も旨い酒を飲むために) 将来の準備って大事ですね。早速、勉強してみます!

B あ、ごめん。さっきの準備書面の記録、僕が自宅に全部持ち帰っていたんだ。

A ……

(中島正博)

第3 「半端なアリのつばやき」

1 はじめに

私は一昨年めでたく高齢者の仲間入りをしました。

以下、私の年金基金体験談をお話しします。未だ未加入の丸腰の会員の方々によりリアルに伝わるよう恥ずかしながら年金に関してはある程度私の個人情報も晒してお話しします。

2 私の丸腰状態

大震災やパンデミック等でいつ死ぬか分からないご時世なので、私は繰下げはせずすぐに受給手続きをしました。60歳の時に年金見込額照会をしていたのでわかってはいたはずですが、改めて年額58万円強の数字を見るとがっくりしました。なお、これに、修習生時代2年間の国家公務員共済年金年額9万円強が加算されますので、この合計年約66万円、月約55,000円、これが、私が丸腰状態としたらの金額です。ちなみに、介護保険料が特別徴収として年金から天引きされるので、手取りはさらに減ります。

ちなみに、公益財団法人生命保険文化センターによる国民の意識調査によれば、夫婦二人の老後の最低日常生活資金は月額約22.1万円、ゆとりのある老後生活費は月額約36.1万円だそうです(平成元年度)。

私の基礎年金だけでは、最低限の生活費どころか、住宅ローンやマンションの家賃にも足りません。

私の場合は払込期間が40年未満だったので40年間満額払込された方より少ないのは当然ですが、老齢基礎年金は、満額払っても年額780,900円、月額65,075円程度(令和3年度)です。

3 入ってよかった年金基金

そこで、日本弁護士国民年金基金の登場です。年金基金のおかげで、ゆとりのある老後生活費にははるかに及びませんが、最低限の日常生活費には近づくことができました。

私は、年金基金への加入が39歳でしたが、掛け金を上限まで増やしたのがそのさらに9年後の48歳と遅かったので、老後の日常生活費にも足りないものの、年金基金に加入せずに丸腰のまま老

後に突入するという悲惨な事態は避けられました。

4 キリギリスにならないために年金基金、所得の多くない人こそ年金基金

かなり前の当基金のパンフレットに当時の当基金常務理事山崎司平先生が「愛妻家なら弁護士国民年金基金、所得の多い人は弁護士国民年金基金、そうでない人はなおさら弁護士国民年金基金、アリとキリギリスのキリギリスにならないために弁護士国民年金基金」という標語を載せておられました。

まさしく、老後の入り口に立って、年金基金のおかげで、キリギリスになるのを免れたことを実感しています。ただ、まだ老後資金には足りないので、半端なアリ止まりなのは残念ですが。

高齢者になった時に数千万円から1億円の預貯金を貯める自信がない方にとって特に大事なのは、「所得は多くない人ならなおさら年金基金」です。

昔、私の友人が言っていました。「若いうちはみんな、間違っって早死にしたときの手当はするが、間違っって長生きしてしまったときの手当は考えていない」と。言い得て妙だと思います。

キリギリスや半端なアリにならないため、未だ丸腰の会員の方々には今すぐ当基金に加入されることをお勧めします。また、加入員の方々も多少無理してでもできるだけ早く掛金上限までの増口されることをお勧めします。

(古屋勇一)

第4 特集「丸腰のまままで長生きしますか？」を読んで

1 「自分には関係がない話」と思った方へ

自由業である弁護士も、何も経済的な備えをせずにシニアライフを迎えるのは、まさに丸腰のまま長い人生の後半戦を迎えるということに他ならず、実はとても不安があることは今までお伝えしてきた通りです。

ここまで読んでいただいて、少しだけ年金に興味を持っていただけたのではないかと思います。

しかし、もしかしたら、「自分には関係がない話」と感じられた方もおられるかもしれません。

そこで、ここでは、年金の話をした場合によくみられる反応と、その反応で本当に大丈夫ですか、という話をしたいと思います。

①「ちょっと不安をあまりすぎでは」

私たち弁護士は、特にお金の絡む話はまずは疑ってかかり、慎重にエビデンスの確認、検討をするという思考方法が身についています。ただ、シニアライフは誰にでもくるものですし、お金の問題は避けては通れません。このことは個人事業主である弁護士も同じです。シニアライフのお金の話は、リアルな現実の話です。

②「そうは言うけど、弁護士は個人事業主だから何とかなるだろう」

60代、70代、80代と、その時々々の年齢によって健康状態や仕事量も異なり、必ずしもそれまでと同じ収入を確保できるとは限らないと思います。備えがあれば憂いを小さくすることはできますし、年金による備えは現実的な選択肢の一つだと思います。

③「調べたり、考えたりする時間がない」

「紺屋の白袴」という言葉があります。私たち弁護士は、依頼者のために知恵を絞り全力を尽くしますが、日々目の前の仕事に追われて、自分のことをじっくりと考えることはどうしても後回しになりがちだと思います。

「何かしたほういいんだろうけど」とは思いながら時間だけが過ぎて、結果的に「気が付いたら丸腰だった!」という方もおられるかもしれません。

弁護士国民年金基金のHPでは、動画や資料を使ってわかりやすく制度の内容を説明しています。簡単に受給金額のシミュレーションもできます。仕事や家事の隙間時間に、是非一度覗いてみてください。それほど時間はかからないと思います。

④「この記事は若手の弁護士だけを対象にしたものだから、ベテランの自分には関係ない」

弁護士国民年金基金は終身年金で掛金全額所得控除となりますので、若手の先生はもちろん、50代の先生が今から加入してもメリットはあります。また、60歳を過ぎても加入できる特定加入という制度もあります。

⑤「今は掛け金を支払う余裕がない」

弁護士国民年金基金の年金は口数制なので、受給予定年金額や月額掛金額など自分に合った年金プランを自由に設計できます。1口から加入でき、加入後もライフプランに合わせて2口目以降を口数単位で増減することも可能です。

2 「結局、何から始めればいいのか?」と 思った方へ

もし、弁護士国民年金基金による備えに関心を持たれた方は是非「日本弁護士国民年金基金」HPをご覧ください。資料請求もできます。

3 最後に

年金推進委員では、今後も様々な機会に「丸腰のまままで長生きしますか?」という問題提起をしていく予定です。会員の皆様におかれましては「またか」とか「自分には関係ない」などと思わずに、ご自身のシニアライフを考えるきっかけにして頂ければ幸いです。弁護士国民年金について、何か気になられる点等ありましたら、推進委員にお尋ねください。

(甲斐田靖)